

# 第40回「議員と語り合い」報告書

文教厚生常任委員会 (No. 1)

開催日	令和5年1月25日 14時00分 ~ 15時30分		
開催場所	富隈地区公民館		
団体名	富隈歴史研究会	参加人員	7人 (男 7人 : 女 0人)
出席議員	山口 仁美、野村 和人、川窪 幸治、久保 史睦、阿多 己清 前川原 正人		
役割分担	班 長(山口 仁美) 記録係(前川原 正人)		
テーマ及び具 体的な内容	1 仮称「霧島市歴史民俗博物館」設置に関する要望 2 「富隈城」史跡の整備 ・歴史ある霧島を国内外に発信し、活性化に寄与する。		

意見 交換 で の 主 な 意 見 等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	◇拠点作りでは、具体的にどこにどのようなものを作りたいのか。
	◆一極集中を避け、史跡に行けばわかるようなものが欲しいが、点々としており、つかみどころが無いので拠点を作ってほしい。短期的なものではなく、長期的な展望、霧島市の活性化、そのための人づくりをする必要があると考える。
	◆合併前に郷土館があったが、現在はどうなっているのか。
	◇市内には、5か所の郷土館がある。城山公園の郷土館は来場者は多いが、他のところは少ない状況である。
◆始良市は資料を集め郷土誌を作っている。曾於市も同様であるが、霧島市はどうか。また古文書も解明されていないが、進めていくべきではないか。	
◇一般質問したが、どこが所管するのかが課題であり、ほとんど進んでいない状況。	
◆高校で歴史を調査してきたが、文化行政の部署をしっかりと作ってほしい。それぞれの旧1市6町を専門的に知らないといけないし、その集合したものが歴史館ではないのか。	

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◆富隈城の石垣は、国道沿いの小学生の通学路であるが、個人の敷地である。国や県などと連携して整備できないのか。

◇市には文化財保護審議会（12人）があるが、出されている事項について議論されていないのか。

◆そのような議論があったことは聞いていない。

◆各旧市町の古文書があるが、それを解明できていないので、それを集約することが必要ではないかと思う。

◇市が観光的資源、教育的資源の文化財の視点が必要と考えるが、今まで署名や取組などはなかったのか。

◆個人的な取組があったかもしれないが、地元としての取組はなかったと思う。富隈城は国史としても大きな影響を及ぼすことにもなる。

◆霧島市の歴史文化財を大切にしてほしい。従来ある郷土館がなくなりつつあるなか、霧島市の郷土史を作ってほしい。合併前は、福山、牧園、溝辺にもあった。何もしなければ、これまであった歴史資料がなくなっていくことになる。人、物に金をかけるように、もっと力を入れてほしい。

◆現代の若い人が、目を向けるような方策が必要ではないか。

◆歴史・文化は継続させることが大事であり、誰かが引き継いでいくことが求められる。

意見交換での  
主な意見等